

NIE を活用して、キャリアアップを図る

～新聞を活用した授業で生徒の自立性・社会性を育む～

新潟市立岡方中学校

1 学校の概要

昭和 22（1947）年 4 月，学校教育法に基づく六三制が実施され，新制中学として「岡方中学校」は誕生した。同年 5 月 15 日に華々しく開校式が挙行されるも校舎はなく，岡方第一小学校と岡方第二小学校の両小学校校舎を借りた「併設」という形で授業等が行われた。

ただ一人の一期生（女生徒）を教師達は手厚く教え導いた。当時は戦後，物のない時代。「読んでごらん」と，そっと自身の本を手渡し与える教師や，破れたままのガラス窓の前に一時間じゅう立ち，寒風から生徒を守る教師がいたという。

その校風は創立 70 周年を迎えた今も，しっかりと受け継がれている。

NIE を通して，生徒の自立性・社会性を高め，キャリアアップを果たそうとすることは，生徒を大事にしてきた我が校の校風に基づくものである。

将来，生きてはたらく力，未来を切り拓いていける力を，NIE を通して育んでいきたい。

2 NIE 実践のねらい

当校は「気力高く，何事にも挑戦する生徒」「夢を持ち，また夢を実現できる力をもった生徒」の育成を目指している。自立性（自力解決力）と社会性を向上させることは，その基盤づくりを意味する。

当校の重点目標「キャリア教育を充実させ，自立性（自力解決力）と社会性の向上を図るとともに，自分の夢に向けて未来を切り拓く力を育てる」は，自立性・社会性の向上を「キャリア教育」という視座から進め，そうして，理想とする生徒像の実現を果たそうとする意志を強く表したものである。

現実社会の実相である新聞を授業で活用する NIE は，上に記した当校の教育によく合致し，かつ，その推進に有効である。NIE を活用し，生徒のキャリアアップを目指した授業を展開することで，生徒の「自分の夢に向けて未来を切り拓く力」を有効に育んでいきたい。

また，NIE の授業は授業者の創造性を要す。NIE 実践を通して，当校職員は大いに授業力を高めることとなる。教職員にとっても，生徒にとっても有益な NIE 実践校の取り組みにしていきたい。

3 本年度実践の概要

月 日	主な実践内容
4 月 3 日	職員研修
(適宜)	各教職員実践
9 月 1 日	新聞購読開始
9 月 21 日	NIE 公開授業①「新潟市教育委員会計画訪問」 授業者：刑部(美術), 熊田(数学), 土屋(音楽), 齋藤(体育) 指導者：新潟市教育委員会指導主事 脇野 哲郎 先生 新潟市教育委員会指導主事 大岩 樹生 先生
11 月 14 日	NIE 公開授業②「NIE 研修」 授業者：石塚(社会) 指導者：木戸中学校校長 上野 昌弘 先生 県 NIE 推進協議会 土屋 修 事務局長
11 月 27 日	NIE 公開授業③「小中合同研修会」 授業者：広瀬(国語) 指導者：木戸中学校校長 上野 昌弘 先生

上記の他に

学習図書委員会では



本年度の新聞購読

	9 月	10 月	11 月	12 月
三年	毎日 日報	朝日 読売	日経 産経	
二年		毎日 日報	朝日 読売	日経 産経
一年			毎日 日報	朝日 読売 日経 産経

図書室内外に「NIE コーナー」を設置しています。(左上写真が室外の、左下写真が室内の「NIE コーナー」)

4 実践の実際

(1) 実践例① 授業者：刑部雅史（美術） 9～10 月実践

題材名「生活の中に作品を飾ろう ～パブリックアートの制作～」

対 象：1 年生

導入部で新潟日報（2017 年 8 月 2 日付『階段に名物わんさか』）の記事を活用した。新発田市立藤塚小学校が新発田駅の階段に実践した「階段アート」を，記事を通して生徒に紹介。身近な地域で，小学生がパブリックアートを行っていることを知ることで，積極的にアイデアを出し合える雰囲気を生徒間につくることができた。



(2) 実践例② 授業者：土屋真美（音楽） 9～10 月実践

題材名「「ふるさと」混声三部合唱」

対 象：3 年生

創立 70 周年記念で歌う「ふるさと」を，ただ歌うのではなく，参会してくださる地域の人にとっても心に残るものにするために，新潟日報の記事（2017 年 5 月 9 日付『歌でまち元気に』）を活用した。



記事は，曲を通して地域を元気づけたり盛り上げたりしようという取り組みがあったことを伝えるもの。全員で記事を読んだ後，参考 DVD を鑑賞し，どんな工夫を凝らせばいいか考えつつ，プレゼンテーション映像の制作に取りか

かった。

撮影等の準備は放課後の時間を利用。制作が進むにつれて生徒の気持ちは高揚し、次々と新たな工夫が案出され加えられていった。

当日は、創立 70 周年記念の式典に引き続き、合唱発表会が行われ、「ふるさと」はすべての締めくくりの意味で歌うことに。歌詞カード代わりにプレゼン映像を披露しながらの合唱となった。映像は、全校生徒はもとより地域の方々も映り込み、また旧校舎の姿や昔の授業の様子が織り込まれ、ラストは自然豊かな今の岡方一帯の風景で終わる、というものだったのだが、満場大喝采、なかには思わず感涙をあふれさす御老人も出るほどだった。

(3) **実践例③** 授業者：石塚博子（社会） 11 月 14 日実践

単元名「中国・四国地方」

対 象：2 年生



中国・四国地方の概略を捉え、主だった各都市について勉強した後の授業。

二つの記事(2017 年 8 月 7 日付「新潟日報」の『核廃絶さらに前進を』と 2017 年 10 月 8 日付「ふむふむ」の『日本、被爆国でも不参加』)を生徒にぶつけ、核兵器禁止条約に不参加の賛否を考察することを通して、平和記念都市である広島の意味について考

えを深めさせた。

単に地理的に捉えるのではなく、歴史的背景を範疇に加えながら、今、我が国を初め世界各国が直面している‘核兵器と平和’という現代問題を考察することを通して、広島を三次元的に、より深く理解していくことができた。



- (4) **実践例④** 授業者：広瀬 悟（国語） 11月27日実践
単元名「漢文の理解を高め、親しみを深める」（自作）
教材名「今に生きる言葉」（光村図書，1年）
対 象：1年生

漢文の訓読記号について理解を深めるために、短い漢文（「漢短文」と呼称）を書かせ、発表する学習活動を行った。

記事は、導入部で新潟日報（2017年11月7日付「新潟日報」『窓』欄「人を元気にする優しい心」）を活用。記事に感化され、自身も人に優しくしようと行動したことを漢短文に書き表した、と教師作を示範したのち、生徒に漢短文に取り組ませた。



発表会当日は「小中合同研修会」。生徒達は、大勢の小・中学校の先生方を前に堂々たる発表を披露。大きな拍手を浴びた生徒達は達成感・満足感を得、漢文に対する親しみの気持ちを深めるとともに訓読記号の理解を高めることができた。



5 成果と課題

右のグラフは「将来の夢やつきたい仕事があります」(新潟市生活・学習意識調査)という質問項目に対する生徒の回答を今年度と前年度とで比較したものである。

ほんのわずかではあるが、将来の夢やつきたい仕事がある

と答えた生徒が前年度に比べて今年度は増えたという結果を得た。夏休み後、本格的に始まった NIE の実践が、この結果の誘因の一つとなっていると考えられる。

生徒にとってこれだけ影響のある NIE の授業。2 年目以降は、11 月 14 日の研修でいただいた上野校長先生の御指導に基づき、“その生徒にとって、世界と自分とを理解し、かかわりを実感・納得する向上的変容のある学び”である「深い学び」のある授業を目指していく。そのためにはまず、教師各々が自身の教科の(生徒が学ぶ)価値を把握しておく必要がある。自教科の価値観から新聞を観察し、教材化を図り、授業として展開していくことで、生徒の自立性・社会性を向上させることができる。また、生徒の未来を切り拓く力を高めていくことができる。

NIE 授業を通して、夢を持てる生徒、また夢を実現できる生徒の育成を目指していきたい。

